

「近隣の自然の変化に目を向ける 番外編：

ミャンマー・ヤンゴンで見た花 Flowers in Yangon Myanmar」

2020年5月20日

今年の3月に私は、ミャンマーに3/13から1週間渡航していた。日本のコロナ感染がクルーズ船「ダイヤモンド・プリンセス号」だけでなく国内の感染者数が40人と危機が拡がりつつあった時期であったので、少々不安を覚えながら出発した。ヤンゴン空港に降り立つと2回、検疫（検温）を受けたが、無事に入国でき、予約していたTen Mile Hotelに宿泊。この時点でミャンマーでの感染者は0であったが、WHOがパンデミック宣言を出した直後であったため、政府は団体旅行者のホテルからの外出禁止を発令。私は個人旅行者であったので制限外であった。

ところが、同じ時期に行われていたCFFスタディーツアー一行（安部さん、CFFスタッフ3人、キャンパー15人）は、コロナ規制の影響で別の狭いホテルから移動して来て、同宿者となった。当初の予定では2日間ほどキャンプに参加させていただき、それ以外の日は渡航の主目的であるヤンゴンの水問題プロジェクトに充てる予定であった。しかし結果的には、6日間同じホテルで過ごし、3度の食事、キャンププログラムに参加させて頂くなど密な対話・交流の機会を楽しませていただいた。その上、別れの日メンバー全員から共通体験が楽しかったという望外の手作りカードを頂いた。

彼らは、制約が多かったミャンマー滞在にも関わらず、帰国後、LINEで活発に交信を続け、ミャンマーの祭やスラムの実態などについて調べてシェアするなど、キャンプ体験をポジティブに捉えている。そこで私も、何かシェアしたいと思いついたのが、ホテルの敷地内と周辺で撮った花の写真アルバム制作である。若者の一人が「花に興味があるけれど、語り合える人が周りにいない」と言うので、ホテルに庭に咲いていた花がプルメリアやブーゲンビリアだと教えてくれたことがアルバム作りの励みとなった。

実は、ほとんどの花の名は不明であった。そこでPlantSnapというアプリとネットで検索。最終的に最後尾に載せた薄紫の花を除いてすべての名前が分かった。そのアルバムをキャンパーLINEにアップしたところ、直ぐに不明な花の名を教えてくれた。実は花卉の数が異なっていて正しくなかったが、交信しながら検索を続けていたところ、ずばり一致する花が見つかった。中国では有名な花のようだ。

コロナ禍で世界中大きく揺れていても草木の花々は自然の営みを続け、人の心を癒やし、結びつけてくれる。写真アルバムを制作しながらそう思った。

【追記】：主目的の水問題プロジェクトの打ち合わせは成功裏に終え、3/18の帰国便に乗った。実は、それまでミャンマーの新型コロナ感染者が0であったが、3/23に初感染者が出た。以後、厳しい入国規制が布かれた。私の帰国便は予定通り成田空港に到着。検疫も通過、数日後から布かれた入国者の2週間の外出規制もなく帰宅できた。その後の国内外のコロナ感染の勢い、緊急事態宣言の下で外出自粛生活を振り返ると、何と奇跡的なミャンマー渡航であった事か！と思い、神に心から感謝している。

<http://sengawacx.com/MyanmarFlowers2020.jpg>